

小中一貫教育小規模校全国連絡協議会議事録

令和2年6月19日（金）10:00 オンライン会議

参加者

（京都大原学院）校長
（田原小中学）校長
（宮島学園）学園長
（余呉小中学校）校長
（まつのやま学園）学園長
（まつのやま学園）元学園長
（京都大学）特任教授・大原在住

1 あいさつ

本協議会の目的確認「全国の小規模校の灯台（希望の火を灯す）」

地域と学校の関わり，地域文化の継承，少子高齢化・過疎化への対応等を共有する

2 学校の様子

（田原小中）初めは課題を届けて回収していたが，GIGA スクールの先取りが行われ，4年生以上に一人一台タブレットが配られ，ミートを使っての授業ができるようになった。2学期以降に全員にタブレットが配られるので，G スイートを使って授業もできるようになる。1学期は8月7日まで，2学期は8月25日から始まる。

（宮島学園）3月17日から5月末まで休校，6月1日から2週間，半分ずつ分散登校をした。夏休みは8月7日から17日まで10日間。

（まつのやま）4月27日，28日，5月1日だけ休みであとは通常通り。運動会，宿泊行事は中止，あとはすべて実施。夏休みは通常通り（短縮なし）。2学期は不特定多数との接触は避けるがほぼ通常通り。年度内にタブレットを配る予定。

（余呉小中）4月9日から休み，5月末から分散登校，6月1日から再開，午前中授業，15日から給食が始まった。長浜市はICT に力を入れているので，独自にiPad を配り，動画，Zoom を使って生徒とコンタクトしている。夏休みは8月5日から19日まで。

（京都大原学院）4月当初，3日間は登校したが，5月末まで休校。幸い，学院生のネット環境が整っていたので，7年生以上はZoom を使って1日3時間授業をしていた。再開後，前期課程は40分授業7コマ，後期課程は45分授業7コマでコマ数を増やすことを考えている。夏休みは8月1日から23日まで。

(田原小中) 修学旅行は後期課程 10月, 前期課程 11月に予定している。

(宮島学園) 後期課程は 10月に京都・大阪, 前期課程は山口を予定している。

(まつのやま) 後期課程は 9月 30日に広島, 京都, 大阪を予定している。

(余呉小中) 後期課程は 4月を 9月 23日に延期し, 東京か広島を予定している。前期課程はキツザニア, 奈良, 京都を予定している。できれば広島, 京都で交流できれば。

(大原学院) 9年の 5月沖縄は 10月に延期。6年は 11月広島を予定している。京都は受け入れをする方向で動いている。5年生が奈良と交流を考えていたが, これは修学旅行ではないので中止した。

3 規約について

- ・今年度から正会員 30,000 円, 賛助会員 5,000 円を集めたい。
- ・今年度は予算化していないので, 校内費で払える。来年度からは予算など書類を用意してもらえたら, 委員会に要求できる。
- ・一口以上とあるが, 会費 30,000 円としてほしい。一人一口ですか?
- ・一校一口です。
- ・第 3 条にあった事務局を, 第 11 条のように各校に事務局を置くようにするが, 今年度は大原学院に置きたい。
- ・サミットを開催する年度の学校が事務局のまとめをしたらどうか。

4 第 6 回小中一貫小規模校全国サミットin 長浜について

- ・この会議で正式に今年度のサミットは延期します。
- ・余呉小中では, 8, 9年でグループ担任制をして, 6~7人でグループを作っている。算数科, 英語科での研究も進めているので, 今年はプレ発表を紙面かオンラインでできないだろうか。
- ・余呉だけでなく 4 校で取り組めないか。
- ・映像, オンラインのライブ発信, 冊子などでPR したい。
- ・発表が延期になったのなら, 今, 各校のHP にこの会のバナーがあるが, 内容がばらばらなので, 今年度は基盤整理に費やしてもいいのではないかと。小規模校の意味を発信したい。
- ・各校のHP を開くと小規模校の HP が開いて, 共通のテーマ, 各校のつながりが見られるものを作れないか。今年度は PDF やライブ配信, 録画したものなどお金のかからないものにしたらどうか。
- ・今年度の発表のテーマは「一人ひとりの学びを大切に, 「学校」と「地域」で創る小規模校の小中一貫教育! 小中一貫教育校だからこそできること, 小規模校だからこそできること」です。探究したもの, 主体的な学習, 地域に貢献する活動, よごふるさと科を研究テーマにしている。

- ・本会のあいさつにもあった「地域と学校のつながり」「地域文化の継承」、各校独自の地域とのつながりをPDFなどで発信したらどうか。

・教科の学びの連続性，教室外の学び，地域と学ぶ。ふるさと科など。

・教室ではできない学びを，よごふるさと科や大原の大人になる科などで意義と成果を子どもたちの動きを通して伝えることが，共通にテーマになると思う。

・地域と学校の関わりは大切

・休業になって，家庭で保護者の関わりが重要になった。家庭は「寝に帰る場所」から「学びの場所」になっている。家庭の中での学びが大切になってきた。オンラインでの学習は不登校の子が学びやすいという声を聞くが，学校で学ぶ意味が大切。家庭，地域，学校での学びのバランスを考えることが必要になる。教科はオンラインで学べるかもしれないが，行事などは学校の在り方につながる。

6 その他

・今後，全国の教育委員会へ発表して，仲間を増やしていく必要がある。

・3年前に大原に引っ越すと友人に言ったら，不思議がられたが，都会だと不要不急の外出が多い。しかし，大原ならそんな心配がない。このコロナで，生活の在り方，学んでいくことの在り方，生き方が問われている。一方で多様な人たちと触れ合う学校が不可欠である。小規模校が重要な魅力になるきざしを感じる。今，友人から大原に引っ越してよかったなとうらやましがられている。今後，小規模校の連携のよさを発信してほしい。

以上